

新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～

8月の月上旬、長柄町の田園は黄金色に色づき、実をつけた稲はこうべを垂れていた。トンボが無数に飛び交い、夏の盛りが過ぎたように感じた。今月中にも稲刈りが始まりそうな気配だったので、今回の台風が収穫直前の新米に被害を与えていないか心配だ。草花一つうまく育てられないものとしては、農家の方のご苦勞には感謝しかない。今年もありがとうございます。

主催事業報告 7/30(火) わくわく体験教室 「アートフラワー～ガーベラをつくろう～」

生涯学習センターで講座を開いている先生に教えてもらいました。白い化学繊維の布に色をつけ、大きさをそろえるように花びら型に切っていきます。細いワイヤーを張ったら、熱いこてを押し付けながら花びらが反るように仕上げます。一輪になるように茎をつけたり、ブローチになるように裏にクリップをつけたりして完成です。

子ども達は、ガーベラのような花びらになるように濃淡の着色には苦勞していました。完成したブローチを早速バッグなどに付けて楽しんでいる様子が印象的でした。



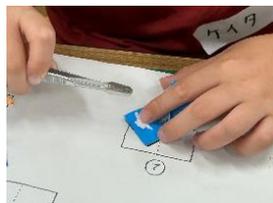
主催事業報告 8/3(土) わくわく体験教室 「ちょっと飛び出す豆本づくり」

さまざまな小物づくりを手掛けている服部さんによる、豆本づくりの体験講座。小学生の手のひらにも収まる小さいサイズの飛び出す絵本を作りました。講師の先生が用意してくれた、人や花火、スイカやお菓子、かき氷等の小さなイラストを物語になるようにページに貼っていきます。途中イラストが立体的



【日本の夏祭り】

に飛び出すような工夫をしながら仕上げました。ハサミやピンセットを器用に使い、集中して細かい作業に取り組んでいました。



主催事業報告 8/6(火) わくわく体験教室 「発泡スチロール版画」

美術講師の宮本先生による版画教室。スーパーで売っている肉や魚をのせた発泡スチロールを“版”にして、オリジナルの版画を摺りました。

発泡スチロールを15cm四方に切り取り、ペンやフォークで線を引いたり、ペットボトルのキャップなどで型を押し込んだりして模様をつけます。次にローラーで思い思いの色を付けて、1回目の版画を摺ります。“版”を水で洗って、違う色を付けて、90度回転させて2回目の版画を摺ります。

白い紙を開くと～・・・幾何学模様の不思議で芸術的な版画が出来上がりました。版を作るときはどんな版画が出来上がるか全く予想ができないのですが、完成した版画はどの作品も色鮮やかで、サインを書いて額縁に入ると、ちょっとしたおしゃれなデザイン画に見えました。

参加した小学生たちは身の回りにあるものを使った模様付けや色の配合を楽しみました。



新宿地区子ども会 夏キャンプ



今年の夏も新宿子ども会の夏キャンプが、長柄町にある千葉市少年自然の家で行われました。中高生、大学生、大人になった

リーダーたちが、時間をかけて取り組んで準備してきました。伝統のある行事ですが年々参加する小学生が減ってきていると聞きま



す。小学5・6年生5名を含め総勢26名のキャンプです。子ども会を卒業した先輩が大勢いることから、

この子ども会を大切に思い、次代に引き継いでいきたいという願いがあることを感じました。

二泊三日のなかには、屋内レクリエーション、肝試し、水鉄砲づくり、キャンドルサービスなどのイベントや、部屋掃除、入浴、感想文作成など、異学年、異年齢の人との交流があります。とても大切な経験の中で言葉にできない学びを得ることができるものだと思います。



2日目の昼食づくりにお邪魔しました。炊事場で役割分担しながらカレーとナンを作っていました。小学生はリーダーの指示に従って、鍋の柄の部分にアルミ箔を巻いたり、火おこしのために薪を割ったり、恐る恐るカレーなべをお玉でかき混ぜたりして参加しています。お兄さん、お姉さんに教えてもらう貴重な時間でした。

天気にも恵まれた時間はあっという間だったでしょう。子ども会の次の行事は12月のクリスマス会、そして来年春休みの春キャンプになっていくのでしょうか。いつまでも引き継がれていく時間が多くあることを願っています。

文化祭実行委員会がありますよ

各サークルの皆さんは、文化祭に向けて発表する曲目を決めたり、展示発表する作品制作に取り組んだり準備も進められていることだと思います。役員さんの会議の内容も具体的になってきたようです。

そこで、実行委員会が9月14日(土)10時から講堂で開催されます。仕事内容・役割分担の確認やステージ発表時の確認などが話題になり

ます。また、音響操作について依頼された団体の方も出席してくださいとのことです。11月2・3日の文化祭がスムーズに行われるための打ち合わせですのでよろしくお願いします。

連絡用ボックスに文書が入っていますのでご確認ください。

帰ること ～望郷～

「夏休み」「お盆休み」の時間を過ごすことがなくなって4年目になります。この時期、東京駅の新幹線ホームの様子をニュースで見ると、「会いに行こうかなあ・・・」とソワソワしてしまいます。

長崎の実家にいてくれる兄が、母との面会を設定してくれたので、それに合わせて月末に帰郷することにしました。そんな計画をしていると、高校時代の仲間から同窓会の知らせがちょうど来たのでした。コロナ禍で4年ほど会えていなかったもので、それはそれは嬉しい便りでした。地元に残っているメンバーが集まる日には帰ることはできなかったのですが、私が帰る日に合わせてもう一度集まる計画を立ててくれました。

何ともありがたいことです。いつも幹事として連絡をくれるT君、ありがとう。そして長崎を出てきてしまったものに、いつも声をかけてくれる仲間の皆さん、ありがとう。今年会う時は、身体の具合のことや薬のこと、家のことなど、すこしネガティブな話がつい口に出るのかもしれませんが、でもきっと誰かが、高校時代のあの時の、あの試合の、あいつの・・・と、口火を切る時がくるものと思っています。

今年の正月は、母がコロナに感染した時でもあったので帰ることはできませんでした。ちょうど1年ぶりの母との面会になります。1年前、別れ際に母が車いすに座ってエレベーターに乗る間に手を振ると、ニコッと笑って手を振り返してくれたのでした。あれから365日も過ぎようとしている母は、あの時のまま変わっていないだろうか。今年も変わらず私のことを心配するような話をしてくれるだろうか。「がんばらんばいけんよ」と喝をいれてくれるだろうか。「ゴルフは少しは上手になったとね」と子ども扱いしてくれるだろうか。

今年も車いすを少しだけ押させてもらおう。

この時期、なぜかどうしてもこんな気持ちになってしまいます。どうかお許しを。

早朝の散歩 とんぼと盛夏ゆく

～今年の夏も暑かった～

積年の 立秋過ぎ 雨が降る

(新宿公民館 館長 迎 浩二)